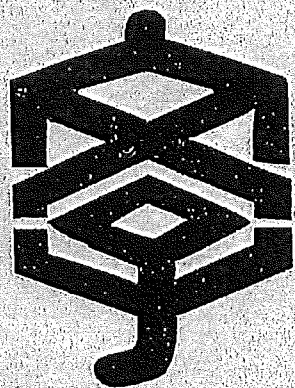


創立八拾周年記念誌



1953

龜城同窓會

第二大學區
第七番中學
區內第一番小
學川谷學校

(非売品)

昭和二十八年十月三十日印刷
昭和二十八年十一月五日発行

発行人 江川 潔

愛知県刈谷市中町二八

印刷所 刈谷合同印刷株式会社

電話三三二番

愛知県刈谷市

龜城小学校内

発行所 龜城同窓會

今昔物語

明治二〇年卒業 工学博士 加藤 与五郎

筆者は亀城高等小学校の第一回卒業で一七名の同級生も大部は他界の人となられ、筆者の知る所では残るは石濱の成田賢一郎君と鈴木坂鉄君の二人のみであろう。京都帝大でも第二回の化学の卒業生で超神代の人物と稱されて居る。年令は日本式では八十二才で依佐美村野田の産である。従って亀城小学校同窓会の大大多数は吾々の話を願うでは浦島太郎を思出さるるであろう。とくに此世にそんな人間があるかと思われようから一言自己紹介をして成程そんな先輩もあったかと思つてもらつてからでないと話ができぬと思われる。

先づ学歴をいうと学校を十七才で卒業し、独学で十九才で京都の同志社大学に入り、卒業後学校の教師を四年つとめ京都帝大に入学四年許り在学、卒業後直ちに米國で有名なマ州工大の先生につられ研究助手を二年半許りつとめ、東京高等工業学校から東京工業大学の教授となり其間理学博士の学位を得、歐米にも四回出かけ七十才まで教授であり其後は工大名譽教授となり筆者の密附（昔の三〇万圓）で工大に建てられた資源化学研究所の所長（教授でないとならぬ）事務をとつて八十才で退職し、今は僧州大学の講師で一年に十回回か軽井澤の宅から長野に参ります。そして工業發明が道楽で内外の特許は三〇〇余件あり、其中酸化金屬磁心と磁石は外國に卒先した發明だといふので一昨年藍綬褒章を拜授しました。此頃は稍自分の時間があるので今日の日本の窮狀を救うは青年にありと思ひ會社や学校に出かけて上級技師や学生に講演して廻り水戸黄門の眞似をすると稱して居ります。

これだけ自己紹介をしたらあなたがち此世から離れたものでもないとして同窓各位は之から述ぶる所に少し耳を傾けてくれるかどうか。

筆者の亀城在學頃の先生は今でも尙敬意を表しその親しみを覚えて居る方が多かつた。就中 田先生は教頭であられてその修身と算術の御講義が感深く今も尙時々思出して居る。榊原先生は平凡に見へたが先生の英語の着目は今日高等の学校の英語の教師でもかなわぬと思はれる点がある。英語では尙濤、楠原の兩先生の如き能くもあんな偉い先生が田舎の小学校に來られたもんだと感じて居る。河原、山田の兩先生は御若かりしせいか寧ろ親み深く、河原先生は岡崎御滞在の時分蒲郡ホテルに二三回御招きして昔を語つて楽しんだ。

之から生徒側の事を述べて見る。十七人かの生徒の中首座は三野俊兒（刈谷）、鈴木坂鉄の兩君の専有物ではなかつたかと思ふ。筆者は五番の獨占者で上にも下にも行けなかつた。圖画、習字、唱歌などは頗る鬼門で地理や歴史もいゝ加減であつた。それで自分には面白いと思ふ一事がある。といふのは亀城小学校には北大濱に分校があつたが廢校になつたので数人の生徒は本校に移つた。筆者は其一人である。所が筆者がその生徒中の首位にあつたらしい。それが五番獨占では分校から移られた山田先生は肩身が狭いと時々筆者を激励されたが、向役立たなかつた。筆者が同志社大学卒業後先生は少し喜んで貰つた感じがしたが、不幸先生は亀崎に移られたので御目にかゝる機会がなくなつたのを今も憾みとして居る。五番獨占者にも少し自慢話もある。算術では自分が一番得意ではなかつたかと思ふ。作文では「言々何々有力」といふので百何点かを河原先生から頂戴したことがある。又演説目ままで小山の某寺から通學して居つた黒田某と話してその寺で自分が講演者となつて大演説会をやる計画をして居る所を黒田先生に聞付けられて止めさせられた事など、今思ひ出して笑話として居る。卒業式の時に縣廳の役人が來られたので答詞の番が當つたのでいい加減のことをしゃべつたら、その役人が「前途……」と雑誌にまで出されたのを喜んだことがある。

自分には随分注意深い人間と思つて居つたが随分不注意という譴責を受けて弱つたことが一ならずある。

戦争当時昔をしのんで母校を訪うて名刺を差出した所何か厄介でも持ち込むと思われたか一向相手になつて貰へず絶望して歸つたが、今度投稿を命ぜられたのを幸い制限内は書きつづきました。